



## 訃報欄でスイッチ「63歳空き巣」の 異名は「悪玉コロンボ」

「精神的に向上心のないものは、馬鹿だ」

とは漱石「こころ」で、私が親友Kを追い詰めたときの台詞だが、この男の場合はどうであったのか。

家族の告別式で不在の住宅を狙って空き巣を繰り返す、窃盗の容疑で4月16日に逮捕された大谷芳則だ。

63歳になるこの男、新聞の訃報欄に自宅住所が掲載され、かつ告別式が斎場などで行われる所を狙った。

なるほど！ とも思わせる、ある意味で知能犯だが……。「兄貴は馬鹿じゃ」

というのは61歳の弟だ。「二度も三度も刑務所に入られて、やめてくれと何度もいうたつた。でも兄貴は、わかっちゃる、いうだけやった……」(同)

そう、大谷が逮捕されたのはこれが初めてではない。

過去に報じられているだけで少なくとも2回……。

最初は87年3月。当時38歳の大谷は、東京や神戸の豪邸を狙う空き巣で、被害額は1億円相当といわれた。

「通帳と印鑑を盗んでは、決まってトレンチコートと帽子を身につけて銀行に預金を下ろしに行くことから、警視庁は「悪玉コロンボ」と名付け、手配書を作成。

銀行にも注意を呼びかけていたんです」(社会部記者)

それが功を奏して、コロンボは銀行員に変装を見破られて御用。逮捕された際、滞在していたホテルの部屋からは現金835万円と通帳50冊、印鑑30個が見つかった。

### 進化する「手口」

その後、98年2月には、長崎県佐世保市内の邸宅に入り、盗んだ通帳から100万円を引き出して逮捕。

そして今回は、「父親の告別式で出払っていた静岡県浜松市の会社役員宅への空き巣です。だが、大谷の自宅は福岡県。そこから新幹線で上京し、レン

タカーで静岡まで行っていきます。東京にいる馴染みのスナックの女に会ってから向かったのではないかと考えられています。刑務所で知り合った静岡の仲間の家に行った時、新聞を見て閃いた、というんですよ。結局、静岡でのシゴトを終えて、東京に戻ったところを

「現場刑事の掟」の著者で、元神奈川県警捜査三課の敏腕・ドロ刑・小川泰平氏が分析する。

「時期により地域も変えていくし、職業的な窃盗犯です。しかし近年、貯金下ろし」はリスクが大きすぎる。

通帳と印鑑を下ろすのは珍しいし、顔も見られま

すから、それで、訃報欄を活用し、現金を狙うように進化したのでしょう。通夜翌日の告別式なら、自宅に

大金がある可能性は高い」シゴトに対する向上心は

あったというべきか。しかし、大谷の地元、かつて炭鉱町であった嘉麻市

の近隣住民は、呆れている。「また捕まったんか。あいつは自分のオヤジの葬式も刑務所におって出られんかったんじゃ……」

炭鉱で働いていた大谷の父は、区長も務めたほどの地元の顔役であったという。「東京でスナック従業員の送迎の仕事をしているとい

つとった頃は、近所に「東京ばな奈」を土産に配った。ついこの間は、それまで

払ったこともない町会費を2カ月分まとめて払いよつて、まともに働きはじめたかと思うとったのに」(同)

逮捕時、大谷の手許には530万円の現金があった。取り調べには、「老後に備えてやった」と答えている。

「窃盗は人を傷つけないから刑は軽いんですが、これだけ繰り返すと7年位は入る可能性があります」

とは日大の板倉宏名誉教授である。娑婆に出られるのは古希の頃。三つ子の魂

百まで、きつともう一度、悪事に手を染める……。

市営住宅(上)に暮らしていた大谷(テレビ朝日ANNニュースより)

